

# 極光電気株式会社

事業内容：特殊放電管や紫外線ランプ、LEDランプの製造と販売を行っている。

創業：74年



代表取締役社長 大友 明さん

## ■長寿の秘訣や大切にされている考えなどをお聞かせください。

元々ものづくりのモットーとして「光の個性を導き出し、光と科学の架け橋であり続ける」というのがあり、特殊な光源を製造してきました。

弊社の人間は科学者ではないため、当然ながら詳細がわからないことは沢山あります。

しかし、例えば特殊な光源を作った時に、カビの生えた場所に当てたらカビが消えたとか、そういった日常のちょっとした気付きを大切にしてきたのが今の仕事に活かされているんじゃないかなと思います。

そのため、他のメーカーよりも早く LED ランプに着手し、技術を進歩させ、知財をおさえてくれました。

## ■時代が変わっていく中で、変わらずに持っている価値観などはございますか。

ランプの製造上機械を使用しますが、完全な機械化や自動化は行っておらず、「人による気付き」というのを大切にしています。

社員というより職人が大半で、彼らの気付きというのはセンサーにも勝ると考えており、人の手に触れて初めてわかることもあると思うんです。いつもより機械のローターの廻りが悪いとか、そういった些細なことでも感覚的に察知して工夫してくれます。

使う人もまた人ですから、職人さんが感じた違和感を使う人も感じると思い、そういった人の“違和感”と

いうセンサーは大事にしてきました。

そのため、社員たちとのコミュニケーションではこちらからとやかく言うのではなく、彼らの“より良いものを作りたい”というプライドを尊重し、違和感を捉え、改善していく姿勢に委ねている部分は多いです。

## ■これから先の次世代に対するお言葉をいただいてもよろしいでしょうか。

製造業において、未だかつてこれほど材料が入手困難な事態に陥ったことはありません。

選べる材料もないため比較検証も出来ない。そのため、今作られているものがはたして本当に良い物なのかという疑念があります。

そういった要因もあり、現代の日本ではものづくり破綻の危機に直面していると思っており、一つのものを磨き上げていくという日本古来の職人魂を全うする事が出来なくなってきたなと感じます。

従って、今まで付き合いのなかった異業種の方たちと連携をとり、産業の構図を新しく構築していく。また、産業の地産地消のようなものを行っていく必要があるのかなと思っています。

加えて、イノベーションの追求という精神が求められており、革新と変化に対応できるかどうかというのが企業存続へのキーポイントになっているのではないかと考えています。



LEDランプの商品サンプル